

日機装新工場建設中止

透析の血液回路 資材高騰で

宮崎市高岡町

たことも中止判断の一因となった。

生産を予定していた血液回路は使い捨ての消耗品。

国内で年間5千万本以上が使われ、日機装はうち約半数を供給している。新工場

では180人の地元採用を予定していた。

宮崎日機装の竹田浩之社長は「工場建設予定地について、地域やグループの

未来に資する形での有効活用を前向きに検討したい」とコメントした。

（池田朋美）

日機装（東京、加藤孝一社長）は、宮崎市高岡町で予定していた人工透析用の血液回路を生産する「宮崎日機装メディカル工場」の建設を中止すると12日までに発表した。新工場

・供給体制を見直し。同年11月、国内初の拠点として73億円を投じ、宮崎日機装の敷地内の未利用だった約3畝に工場を新設すると発表していた。

来年1月のフル稼働を目指し準備を進めていたが、建設資材の高騰や自動生産

ラインの再検討で、想定を上回る費用がかかることが判明。また、ホーチミン、タイでの日本向けの製品在庫を積み増し、今年7月にはベトナム・クアンガイ工場へ日本向け製品の生産・輸出体制を構築するなど、海外での機能強化が進展し

などで投資額が当初計画を上回ったため。タイ、ベトナムにある海外拠点3カ所で需要を補えると判断した。

日機装は2021年、ベトナム・ホーチミンの血液回路工場がコロナ禍の供給網混乱で操業停止を余儀なくされたことを受け、生産